

## A14b 線像検出法によるしし座流星群の輻射点決定

柳沢 俊史 (科学技術振興事業団)、大西 浩次 (長野高専)、鳥居 研一、小浜 光洋 (理化学研究所)、中島 厚 (航空宇宙技術研究所)

CCD 画像上において雑音レベル以下の非常に暗いデブリや流星による軌跡を捉える「線像検出法」を開発した。この方法は、線像の軌跡方向に CCD の画素を積分することにより SN 比を向上させるもので、従来の流星観測にない新しい手法である。この方法を流星観測に用いることにより、流星現象に関する新たな知見を得ることに大きく貢献すると思われる。我々は、昨年 11 月 19 日未明のしし座流星群を複数台の光学望遠鏡及びカメラレンズに冷却 CCD カメラを設置した観測システムで観測した。輻射点から離れた数カ所を 10 秒程度の露出時間で極大の予想時間を含めた数時間のあいだ連続撮影した。得られた数 100 枚の CCD 画像データを「線像検出法」で解析することにより、精度良い輻射点の決定をめざす。また、暗い等級まで含めたしし座流星群の光度分布もわかるはずである。

本講演では、「線像検出法」の原理や利点を説明して、この方法の流星観測に対する有効性を示すとともに、しし座流星群の観測データを用いた解析結果等を紹介する。